

D-73-管調資-No.20

昭和46年3月 初版
昭和47年8月 改訂版
昭和48年7月 改訂版

各国事情のしおり

——インドネシア編——

1973・7



海外技術協力事業団

持出禁止

保存用

国際協力事業団		
受入 月日	'87. 7. 6	108
登録 No.	08757	20
		EX

は し が き

本小冊子は、技術協力のために海外に派遣される専門家のオリエンテーション用資料として事業団海外事務所からの調査報告をもとに作成したものである。

本小冊子は、事業団海外事務所の役割（専門家派遣に係る業務の範囲）、専門家に対する要望事項について記すとともに、専門家の日常生活に密着した任国事情、特に衣、食、住、気候、教育、公共施設、治安、対日感情等を重点に作成した。

本小冊子の各項目については、今後も適時修正をおこなってゆくが、本小冊子が同国に赴任される専門家の何らかの参考になれば幸である。

昭和48年7月

JICA LIBRARY



101432617

目 次

I	海外技術協力事業団海外事務所について	1
	1. 海外事務所の役割	1
	2. 専門家に対する要望事項	1
II	任 国 事 情	5
	1. 住宅（住宅事情、家賃等、ホテル、什器・備品）	5
	2. 食品（食料事情、価格、外食）	8
	3. 衣類、日用品（衣料事情、日用品）	12
	4. 使用人	12
	5. 医療（医療事情、医薬品、健康管理上の注意事項）	13
	6. 子弟の教育機関（教育機関、授業料、通学方法）	14
	7. 娯楽設備（保養地等、日本人クラブ等）	15
	8. 電 力	16
	9. 交通（交通事情、ハイヤー、自動車購入、運転免許 ガソリン代）	16
	10. 為替（相場、対日送金、滞在費等受取方法）	18
	11. 出入国管理（税関検査、ビザ手続き等）	18
	12. 便宜供与（種類、カウンターパート、免税特権）	20
	13. 通信、運輸（郵便事情、運送）	21
	14. 言語（公用語、英語等の普及等、語学学習）	22
	15. 気 候	23
	16. 治安（一般情勢、夜間外出、緊急時連絡方法）	23
	17. その他（対日感情、新聞・雑誌等、風俗・習慣、 理髪・美容等、買物）	24

Ⅲ 同国に対する我国の技術協力実績	27
Ⅳ インドネシア関係資料目録	35
Ⅴ 海外事務所等連絡先	44

インドネシア共和国

面積 1,457,272km²
 人口 11,600万人(1969年)
 主要都市 ジャカルタ (Djakarta)。
 通貨単位 1米ドル=415ルピア。
 宗教 回教が殆どである。
 民族 ジャバネズ、日本人学校がある。
 公用語 インドネシア語。
 住民 マレー人、中国人など。
 1967年4月アフリカのアフリポート・チャプラー社が
 第一号として西イリアン鉱山開採に乗り出すなど、全国の
 振興も積極化している。



アラフラ海
 シンガポール
 マレーシア
 フィリピン
 西イリアン (西ニューギニア)

0キロ 250 500

I 海外技術協力事業団海外事務所について

1. 海外事務所の役割

(1) 赴任当初

- (イ) 専門家および家族。
 - ① 空港への出迎え。
 - ② 宿舍の手配。
 - ③ 大使館および勤務先への紹介。
 - ④ 滞在許可（2ヵ月以上滞在する場合は滞在許可の取得が必要。写真を1枚必要とする）。
 - ⑤ 身分証明書の発給申請（イ国外務省発給、写真²枚必要とする）。
 - ⑥ 免税店における購買カードの発給申請。
 - ⑦ 業務用別送機材、私物荷物、乗用車、引越荷物、郵便小包等などの無税搬入許可申請。
 - ⑧ 現地事情のオリエンテーション、住宅および生活相談。
- (ロ) 調査団
 - ① イ側と事前打合せおよびアポイントメント取付け。
 - ② 空港への出迎え。
 - ③ 宿舍の手配。
 - ④ 大使館および関係者への紹介。
 - ⑤ 必要により、現地調査に同行。
 - ⑥ 必要により、イ側に提出する暫定報告書作成に協力。
 - ⑦ 滞在許可および出国許可の申請、取得。
（期間により写真を必要、(3)帰国時の項参照）。

(2) 赴任中

- ① 本部へ送付する業務報告書、事務連絡の写を提出しても

らう。報告書は大使館関係者に回覧の後、当事務所で保管する。(ジャカルタ在住の専門家はオリジナルおよび写計2部を提出のこと。黒インク又は黒ボールペンを使用すること)。

- ② 住宅等調査、療養費給付請求書の確認、証明。
- ③ 現地業務費プール分支出申請の承認および経費の支払。(但し、海外事業部関係のみ)。
- ④ 専門家の活動状況把握および実施上の問題点の改善。
- ⑤ 専門家および家族の滞在許可、身分証明書の更新(1年毎に必要)。
- ⑥ 外領等マラリア発生地区への出張者に対する予防薬の配付。

(3) 帰国時(含む一時帰国)

- ① 出国許可の申請・取得(約1カ月を要するため、1カ月前に旅券の提出等手続のこと)。
- ② 一時帰国の際は出国許可、再入国許可の申請、取付け。
- ③ 別送荷物の免税、許可申請・取得。

申請に当っては本人より Invoice Packing List(7部)提出してもらい、これをもとに許可を取得する。

(参考)

写真の必要枚数(専門家、家族それぞれ)

滞在期間	必要枚数	備考
1カ月以内	不要	
1カ月以上~2カ月以内	1枚	出国許可のため
2カ月以上	1枚 + 2枚	滞在許可および出国許可身分証明書取得

※他に運転免許証の切替、身分証明書^{の更新等に必要であり、10枚程度持参すると便利である。}

(4) その他

- ① 研修員の日本派遣業務。
- ② 帰国研修員の同窓会活動援助。
- ③ 技術協力についてイ国の必要性(*Needs*)の把握および効果測定。
- ④ 日本の技術協力のPR。
- ⑤ その他。

2. 海外事務所からの専門家に対する要望事項

- ① 服装は常に清潔を保つこと。
- ② 日本人は礼儀正しいといわれているが、その反面尊大にして粗暴とも評価されるむきがあるので注意すること。
- ③ インドネシア人は大部分が回教徒であり、生活様式、慣習が異なるので、理解に苦しむことがしばしばおこる。例えば、左手は不浄という考え方がるので物を渡す時は右手を使うこと。又、カウンターパートや使用人を大声で叱らないこと、要は日本の常識や国際感覚に基づいて言動すれば大体において大過ない。
- ④ 日本人は概して国際社会での交際が上手でないという定評があるが、日本人のみの閉鎖社会を形成せず、業務等を通じて知合ったインドネシア人、他の外国人と出来るだけ交際の幅を広げることが望ましい。
- ⑤ インドネシア人は通常、午睡をとる習慣があるので、午後5時以前の訪問は差控えること。

- ⑥ 英語の研修は絶対必要である。政府ならびに関係機関の中級以上の職員は英語を理解するものが最近多くなってきた。しかし、一般のインドネシア人、特に家事使用人は英語を話さないため、日常、生活上ではインドネシア語が必要である。これは赴任後習得する機会は十分ある。
- ⑦ グループ派遣の専門家は往々にしてチームワークが問題になるが、リーダーの指導の下にお互いに与えられた使命を深く認識し、建設^的意見を尊重し、小事にこだわらず協調の精神を第一とすること。
- ⑧ 夫人方は多くの場合、初めての外国生活、慣習の違い、特に衛生観念の違いから、当初はかなり抵抗を感じられるが、郷に入らば郷に従えという心構えをもつこと。

II 任国事情

1. 住 宅

(f) 住宅事情(ジャカルタ市について)

① 入手状況

経済開発政策の推進に伴い、各国の商社員、技術員の進出の進出が益々激しくなり、このため住宅需要が激しく、家賃は上昇の一途をたどっている。

家賃および好みについて、難しい条件をつけない限り、入手はそれほど困難ではない。しかし、1年程度の短期契約は家主が喜ばずかなり割高となる。

② エージェント

個人住宅の貸借のため独立して不動産業を営む者は皆無である。営業許可を必要としないので役人、社員がアルバイトをしているケースが多いようであるが、個人的には専業者もかなりいる。普通これらエージェントを利用した方が入手は容易である。手数料は5~10%で一般的には家主が負担することとなっている。

③ 賃貸方法

全額一括前払いである。期間は最低一年以上であるが、賃貸期間の長さに比例して割安になる。例えば、1年契約で1ヵ月400\$の場合であれば、2年契約で350\$/月、3年契約で300\$/月位になる感じである。

但し、入居条件として、手直し、修理箇所があれば、それを終了する期間、手付け金を支払い、残金は終了後支払うことも出来る。この場合の内容については家主との話し合いによる。

④ 家賃

家賃は地域により異り一概にはいえませんが、ジャカルタ在住日本人専門家の大部分が居住しているクバヨランバルー (Kebayoran Baru) 地区を例にとると、標準的に考えて3寝室、居間、食堂および使用人部屋の構成で大凡次のとおりである。

1年の場合 約 450 ~ 550 US \$

2 " " 400 ~ 500 US \$

3 " " 350 ~ 450 US \$

一般的には家具付で内容はベット、洋服ダンス、サイドボード、応接セット、机、冷蔵庫、シーリングファンおよび電話等であり、その他クーラーの^ついている家もある。

⑤ 住宅選定の条件

- (a) 電気の供給容量が大きいこと。(3 Km以上)
- (b) 水道と井戸の両方があれば望しいが、水道のない場合が多いので、井戸は深く水質の良いこと。
- (c) 大家の人柄が良く金持であること。(修理が必要の場合すぐ直してくれる)
- (d) ベチャのたまり場に近くないこと。(物騒であり、うるさい)
- (e) モスク(回教寺院)に近くないこと。(早朝よりのお祈りでうるさい)
- (f) 大通りからはなれていること。(騒音)
- (g) 家具付か否かをはっきりさせ、又改修箇所があれば事前に直させること。
- (h) 周囲の環境が良いこと。(カンボンに近くなく外国人が

多いところ)

(i) 電話を希望する場合は既についている家に入ること。入居後つけさせることはかなり困難。

(j) 寝室と隣家の窓が近くないこと。

その他にもいろいろあると思うが、これらの条件をすべて満たすことは不可能である。個人的に生活上最も大切と思う点を決め、選定の参考として欲しい。

⑥ 契約上の注意事項

契約に当って、次の事項に留意すること。

(a) 当該住宅の所有者の確認

1) 方法としては、1) 信頼出来る知人、友人、エージェントの証言。2) 家の権利証の確認。3) 過去1年間の電気、電話、水道等の料金領収書による確認。4) 契約の際公証人 (Notaris) の立会い。(手数料は契約金額の1%前後)

(b) 居住権の継承

契約期間内に帰国等あけ渡さねばならない事態に立至った場合、後任者等が残存期間、同一条件で居住出来るよう明確にすること。

(c) 契約金の支払い一部留保

改装、改築等の条件とした場合、完了するまでは、契約額の1割ないし2割は^{おれ}保留する。

(d) ホテル (ジャカルタ)

部屋代			US \$
	Single	Double	
高級	18 ~ 25	25 ~ 30	(Hotel Indonesia President)
中級	12 ~ 16	20 ~ 25	(Hotel Asri Interhouse)

(上記金額にサービス料、税金21%が加算される)

ジャカルタはホテル代は非常に高いので、当初は単身赴任し、住宅が決ってから家族を呼び寄せることが得策である。ホテルに1カ月以上滞在する場合は5～15%の値引きが出来る。

なお、当地にはアパートは官舎以外にはない。

下宿屋は³軒ある。1日2食付で10US\$位である。しかし、かなり需要があるので、いつでも入れるというわけにはいかない。

(c) 什器、備品

茶わん、湯呑、おわんは適当なものがないので、持参した方がよい。他は一応何でも入手可能。

電気製品については日本製はもちろんアメリカ製、オランダ製等かなり入っている。価格は日本に比して若干割高であるが、輸送費、当地での引越^取費を加えると必ずしも高いとはいえず、当地で購入した方が早く入手出来る。

但し、日本ほど品数が豊富でないので選択は限定される。

テレビ	20インチ	110,000～130,000 Rp
“	14インチ	70,000～80,000 Rp
電気冷蔵庫	200ℓ	150,000～170,000 Rp
	120ℓ	80,000～100,000 Rp
電気釜		4,000～6,000 Rp
トースター		4,000～5,000 Rp

2. 食 品

(1) 食料事情

① 一般的食料事情

食料品は一般的に豊富であり、外国製品や日本品も比較

的多く出廻っている。

② 日本食品の入手状況

しょう油、味噌、てんぷら油、さらだ油、茶、ノリ、ソース、めん類等かなりの日本食品はスーパーマーケットで販売されており、比較的人手可能。又ジャカルタでは免税店があって専門家は上記品目を市価の約2～3割安で購入可能である。但し、入荷の都合で時々品切れの場合もあり、かつ種類は限られている。

③ 日本食レストラン

菊川、ゆかり、よしと、みつよ、故里、日本人クラブ食堂6軒あり。

(ロ) 価 格

1米ドル=415ルピア

品 名	数 量	価 格 (RP)
米	1キロ	150 ~ 200
み そ	1キロ	1,800
し ょ う 油	2 ㍓	1,300
砂 糖	1キロ	160
てんぷら油		2,000
ソ ー ス	小1本	500
め ん	1たば	230
パ タ ー	1ポンド	400
チ ー ス	0.5ポンド	400 ~ 800
ハ ム	100g	100
豚 肉	ヒレ1切	1,000
牛 肉	1キロ	1,000

品名	数量	価格(RP)
とりにく	1キロ	1,000
えび	1キロ	1,200 ~ 1,500
卵	1キロ	400
パン	1キソ	90
小麦粉	1キロ	300
さつまいも	1キロ	50
じゃがいも	1キロ	50 ~ 60
にんじん	1キロ	100
キャベツ	1キロ	100
きゅうり	1キロ	100
とまと	1キロ	125
みかん	1キロ	360 ~ 400
たまねぎ	1キロ	400
ながねぎ	1キロ	100
カリフラワー	1キロ	100
レタス	1キロ	300 ~ 350
大根	1キロ	100
ナス	1キロ	300
ピール	大1本	140
ジョウワーカー	赤	1,550
"	黒	2,750
たばこ(マスコット)	20本入	90
アメリカタバコ	20本入	150 ~ 200
化粧石けん	1ヶ	100 ~ 150

品名	数量	価格(RP)
歯みがき粉	1ケ(中)	200~300
トイレットペーパー	1巻	100
コーヒーマシン	1キロ	400~700
トウモロコシ	小1ケ	25
ラーメン	1ケ	30
アイスクリーム	半ガロン	1,000
パイナップル	中1ケ	100
パイナップル	中1ケ	100
ジュルクックス	1キロ	150~200
オレンジ	1キロ	400
バナナ	1本	10~20
スイカ	中	200
ガツリン	普通1ℓ	41
ケロシン	1ℓ	20
天ぷら定食		800
刺身定食		500
とんかつ定食		500
※すき焼き		1,500
天ぷらうどん		400
月見		350
たぬき		300
冷うどん		300
ざるそば		300
玉子丼		600
親子丼		500
天丼		500
かつ丼		500
牛乳	500cc	100
床		300

3. 衣料, 日用品

(イ) 衣料事情

① 一般的衣料事情

ほとんどなんでも当地で購入可能、但し、Yシャツ、下着類は香港製が多く、日本人の好みにあわないものが多いので、一通り用意してくること、雨期およびバンドン等比較的涼しい地域に旅行する場合などは、長袖やうすいセーターが必要である。

② 必要とする衣類

大使公邸などの夕食会でも婦人は私服を着用する場合はまずない。正月と天皇誕生日にドレスを着用している。男子は背広2着、ズボン3着あれば十分である。インドネシアの役所ではネクタイをしなくても良い。

寝具はタオルケット2枚あてぐらいあれば良い。

(ロ) 日用品

石けん、歯みがき、タオル、ボマード、トイレットペーパー等日用品は日本品を含めて比較的豊富に出廻っている。

4. 使用人

① 職業紹介所は一般的に利用されていない。

② 具体的雇用方法

知人の使用人にたのめばすぐ探してくれる。

③ 給与月額(ジャカルタ基準, 地方は若干低い)

女中	4,000~6,000 RP	住込食事代込み
コック	5,000~6,500	"
ボーイ	5,000~6,500	"

運転手 10,000～12,000 RP 勤務時間 7:00～4:00

残業手当 50～60 / hr

④ 雇用、解雇に際し、特に注意すべき事項

家事使用人の使用については^{いかなる}国においても神経を使う問題である。民族、言葉、宗教、風俗、生活習慣の異なる所での生活は確かに骨が折れるものであるが、要は郷へ入らば郷に従うことで、あまり日本人^的な性急さで事の処理を急いだりすることを避け、相手国の社会、伝統、生活慣習を理解、尊重することが大切である。

すぐに感情的になって、大声をあげて叱ったり、手をあげたりすることは絶対にさけるべきである。

言葉^が不十分^な点^は冷静な理性と相手の立場に立って、物事を考える暖い思いやりの心が必要である。

雇用に当っては、ボーイより女中を使用することが一般的には好しく、当初の3か月間は試用期間(coba チョバ)とすること。やむを得ず、解雇せざるを得ない場合は試用期間中でも若干の金を与えて個人的反感や感情的しこりを残さないようにすること。試用期間後に解雇する場合その理由が使用人の責任でない場合は給料の2～3か月分請求される。

5. 医 療

(1) 医療事情

① 医療施設

病院と名のつくものは、ジャカルタ市内に20前後あるが、施設が完備しているのは「プルトミナ(石油公社)中央病院」および「セントカルロス」がある。しかし大きな

手術等は日本の病院に頼らざるを得ない。

個人開業医（昼間は病院勤務したものが、夕方より自宅開業するのが一般的である）がかなりある。

② 日本人医師

日本大使館に医務官が1名いる以外日本人医師はいない。

日本で勉強したインドネシア人、中国人の医師が若干いる。

(a) 医薬品

医薬品は薬局が多数あり、アメリカ、ドイツ又一部日本製もあり、不足はないようであるが、医薬分業制であるため、一部の薬を除いて医師の処方箋がないと購入出来ない。

風邪薬、胃腸薬、外傷薬、眼薬、クロマイ等の家庭常備薬は一通り用意した方がよい。又蚊など虫さされが多いので、カユミ止めを多めに持参することをおすすめする。

(b) 健康管理上の注意事項

気候、食物、水等が異なるので慣れるまでは、体調を崩しや
すい。特にジャカルタは水質が悪いので、水は必ず一度沸湯
させてから利用すること。一般的には、^早飲、^早食を慎み、
適度の運動を行ない、^服睡眠を十分とるよう心掛けること。

ジャワ島以外に赴く際はマラリア予防薬を服用することが望しい。

6. 子弟の教育機関

昭和44年より日本人学校が創立され、生徒数は現在約100名位である。幼稚園は46年1月より開設され、生徒数は約80名いる。授業料は幼稚園、小・中学とも入学金および月謝

それぞれ 30 US\$ である。入学の際、学校費 400 US\$ を買わされる。これは転校或いは卒業時に返還される。

所在地はジャカルタ郊外のパッサルミングである。

7. 娯楽設備

(1) 保養地等

海水浴場 ジャカルタ近郊にピナリヤ、メラク（ジャカルタより 120 Km）

サムドラビーチ（ジャカルタより 150 Km）

植物園 ボゴール（ジャカルタより 60 Km：世界的有名な所）

動物園 パッサルミング（ジャカルタより 25 Km）

遊園地 数カ所あり、子供用の乗物など各種ある。

博物館 中央博物館とバタビヤ博物館がある。

ゴルフ場 ジャカルタ市内および近郊に数カ所あり、他にボゴール、バンドン、スマラン、スラバヤ各 1カ所ある。

ボーリング場 ホテルカルチカプラザおよびピナリアの 2カ所。

映画館 多数ある。

他に競馬場、ドッグレース、ハイアライ等があり、又あまり健康的とはいえないが、カジノが 2カ所、ナイトクラブは多数ある。

(2) 日本人クラブ、スポーツクラブの有無料金

日本人クラブはある。会費は月 1,000 RP, 家族を含む場合は月 1,500 RP, その他にゴルフ、テニスクラブがある。

8. 電 力

電力事情はあまり良くなく電圧の変動がある。
基本的には家庭用は110 V 50 cy である。
将来は220 V 50 cy に変えていく方針である。

9. 交 通

(イ) 交通事情

① 一般交通機関

市内はバス、タクシー、ヘルチャ（三輪自動車）、ベモ、短きよりであればベチャ（三輪自転車）が利用出来る。

バス網はかなり発達している。行先表示はあるが、地理を覚え、言葉がある程度出来ないと利用しにくい。バス以外はすべて乗る前に料金交渉をすること。かりに料金交渉をせずに乗った場合、料金は相手のいゝなりに支払わねばならない。特にベチャは悪質なのがいたので、注意を要する。

派遣専門家にとって自家用車は生活上不可欠である。

② 道路事情

主要幹線道路およびジャカルタ市内の主要道路は舗装されており、比較的良い。

③ 特に注意すべき交通法規

左側通行であり、日本の法規を知っていれば大体問題ないが、一方通行が多いこと、信号によらずロータリーで右折する点が注意を要する。又、何処に止めても駐車料を請求される。

④ 交通事故の取扱い

自動車保険制度がととのっているもので、必ず加入すること。

人身事故の場合、たゞちに現場から警察に逃げ込まないとリンチにあり恐れがある。

(a) ハイヤーの利用料金

時間制で1時間600 RP位であるが最低2^南時間制である。市外へ出ると割増料金を請求される。例えばジャカルタ～ポゴール間約6時間利用5,000～6,000 RP、ジャカルタ～バンドン日帰り利用10時間利用15,000～16,000 RP程度である。

(b) 自動車の購入

① 免税輸入特権

日本メーカー(トヨタ、日産)、欧米メーカーの現地法人、代理店等があり、専門家は免税で輸入ないし購入出来る。(免税手続は当事務所が代行している。)トヨタは当地の代理店で発注可能であるが、代理店から日本へ発注するため、赴任前に日本で発注した方が時間の節約になる。日産は時々見込みで極く限られた車種を無税輸入し、ストックしているので、事前に在庫状況を確認すれば、当地で比較的早く入手出来る。在庫がない場合はトヨタと同じく東京で発注した方が早い。

車の購入代金の融資を希望される場合は事前に本部で融資斡施を受けること。

なお、自動車がジャカルタに入港してから引取るまでの手続に約3週間の日時を要する。又、通関、車検等の手続、手数料のため、1台当り80,000～100,000 RPを必要とす

る。

② 帰国時の売却方法，課税

売却は政府の指定を受けた業者（5社）に売却することとなっている。インドネシアは新車の輸入には関税等200～300%の税金がかかるため，一般的方法では輸入しにくい。このため専門家の自動車は購入時にほぼ同等の価格で売却されている。課税は購入者が負担している。

(4) 運転免許

① 国際免許証の有効性

国際免許証は有効であるが，インドネシアの免許証に切替える必要がある。

10. 為 替

(1) 相 場

1 US \$ 415 RP (ルピア)

(2) 対日送金

当地銀行，例えば東京銀行ジャカルタ支店を通じ送金出来る。

(3) 滞在費等の受取り方法

当地の銀行に口座を開設すれば問題はない。ドル口座を持つ。

専門家によっては，東銀信託New York に送金し，当地で引き出している。直接ジャカルタへ送る方法と比べて一長一短あり。

11. 出入国管理

(4) 税関検査

① 一般事情

ジャカルタ空港の入国検査は非常に厳しく、公用旅券でもすべて中味を調べられる。同一種類の新しい衣類や品物、土産など多量に持込むと、時により課税される場合がある。

② 注意事項

1) 携行荷物

- (a) ダンボール箱の携行は課税対象になるばかりでなく、即日引渡が出来ないため使用しないこと。
- (b) 携行品申告書(機内で配布)には、カメラ、ラジオ、テープレコーダー等一台ずつであれば、詳細申告せず、Personal Effects only とのみ記載しておくこと。
- (c) 新品は包装を解いてくるのが望ましい。新品の包装のまま持込むと課税対象となることがある。

2) アナカン

- (a) アナカンはすぐに引取れると理解している人が多いが、当地では手続にかなり時間を要する。(1週間～10日間)
この理由は Personal Effects であっても課税されるので、免税手続をするためである。
- (b) 当地の Cargo の保管は日航が最も整備されており、他の航空会社では荷物が見つからないようなケースもあり、又、保管料は、日航が最も安く他の航空会社は割高であるので、必ず日航を利用すること。
- (c) 保管料は1ケースいくらかで計算され、又引取手数料 (custom broker に依頼した場合)も同様1ケース毎

に計算されるので、小さい梱包はさげ、可能な限り大きくして箇数を少なくする方が割安である。

③ 国際的禁止品以外の持込禁止品

ピストル、火薬、刃物は持込禁止である。その他特にないようであるが、その時々検査官によって、押収される場合もある。例えば、新品のワイシャツの数（12枚）が多いと問題になり、又、蚊取線香を禁止品として没収されたケースもある。

④ 持出禁止品

極楽島、文化財等。

(ロ) 外人登録、ビザの更新手続

外人登録はない。又、2カ月以上の滞在者はビザが切れても更新は必要ない。むしろビザは入国許可であり、ビザがあっても、2カ月以上の長期滞在者は入国後速やかに滞在許可を取る必要がある。これは一年毎に更新し、かつ、出国の際は出国許可を必要とする。いずれも当事務所が取得事務を代行している。

2. 便宜供与

(イ) 便宜供与の種類

① 住宅手当等の現金供与

現金供与はない。住宅提供も皆無である。

② 出張旅費

公共事業省および水産総局が、出張旅費（旅費のみで日当等は出ない）を提供している以外、他省庁よりの支給はない。

(ロ) カウンターパート

カウンターパートは原則として英語の出来る者を配してくれる。

(ハ) 免税特権

身廻り品、~~本~~電気製品、食料品等一通りは適用される。
~~車~~

13. 通信・運輸

(イ) 郵便事情

① 安全性

あまり良いとはいえない。日本から来る郵便物はほぼ間違いなく着いている。住宅街であれば戸口配達もしてくれる。逆にインドネシアから日本向けについては、時々行方不明になる場合がある。手紙発信の際、郵便局で消印を押して貰うようにすれば問題ない。

② 電報・電話

電報は、一応国内、海外とも可能である。電話は、国際電話は比較的早く、かなりきき取りやすい。国内では、市外は、ジャカルタ・バンドン間およびジャカルタ・ジョクジャカルタ間だけがダイヤル直通であとは申込で時間がかかるうえに、非常にきき取りにくい。雨が降ると故障が多くなる。

③ 手紙、電報、電話の日・イ間の所要時間

手紙 (air mail)	4日～7日
電報	1日
電話 (申込後)	20分～1時間半

(ロ) 運送

① 陸送，海送業者の有無

陸送，海送等の専門業者がいて全部やってくれる。料金は容積，重量，個数によって異なるので一概にはいえない。

② 家財等送付上の手続，宛名注意事項

Mr. A. (氏名)

OTCA

C/O EMBASSY OF JAPAN

24 JARAN THAMRIN JAKARTA

INDONESIA

14. 言 語

(イ) 公用語，英語，その他の第一外国語の普及度

公用語はインドネシア語である。ジャカルタを一步はなれるとそれぞれ異った地方語を使用している。しかし教育の普及と相俟ってインドネシア語の普及が全国的に広まっており，何処でもだいたいインドネシア語で通じる。

外国語は英語が最も普及しており，オランダ語は一部上流階級のみで次第に力を弱めている。

(ロ) インドネシア語事前学習の必要性

インドネシア語を事前に学習することは必要だと思いが，業務内容により，絶対とは一概にいえない。家庭では運転手，女中，又一步外へ出れば買物等すべてインドネシア語であり，必要なことはいうまでもないが，当地に来てからでも十分勉強の機会はある。むしろ業務上は英語の出来るカウンターパートが配されるもので，英語で十分である。しかし業務によってはインドネシア語を要求される。例えば，農業プロジェ

クト特に普及担当者は出来たら事前学習しておいた方がベターである。

(*) 語学々習の施設, 受講時間

ある。個人教授もある。1回の料金500~1,000 RP

15. 気 候

インドネシアは赤道沿いに東西約5,000 Km南北2,000 Kmの範囲に13,000余の島^{しよ}群が点在しており, その面積は日本の約5倍に達し, 又世界有数の火山国で3,000m以上の高山が40以上あり, 気候は地域によって変化がみられる。

ジャカルタはほぼ赤道直下, 南緯^ぼ6度に位置しており, インドネシアの都市で最も暑い都市の一つである。年平均気温は一年を通じて26°~27°Cで, 年間温度差はほとんどない。しかし一日の気温較差は大きく, 日中の最高(約33°C)と夜明けの最低(約24°C)の差は約10°Cほどで, 朝夕は比較的のびやすい。このため寝る時は暑くて裸で^裸眠ってしまうと明け方に風邪を引くことがある。インドネシアの気候は一般的に雨季と乾季に大別される。ジャワ島は5月から10月が乾季で11月から4月が雨季である。雨季になると毎日一度は雨が降^り日によっては朝から降ることもあるが, 一般的には午後2時頃集中的に降るいわゆるスコールである。年間降雨量は平野部で約2,000 mm, 山岳部で3,000 mm以上, ところによっては4,000 mm以上に達する。年間降雨量の大部分は雨季に集中する。

16. 治 安

(1) 一般情勢

政情はかなり安定している。昨年（1972年）の大干魃により、地方では食糧不足のため一部不安に要素もあったようだが、現政権は軍、警察を完全に掌握し、種々安定施策を講じており、混乱はなく、この当面、政変はおこり得ないものと思われる。街の治安という面では必ずしも安心出来ず盗難事件はひんばんに起る。街中で腕時計を強奪されるという事件も多い。家においては戸閉を厳重にし、犬を飼うのも一策である。又、外出の時はスリ、置引きが常にねらっているという気持で注意を払う必要がある。ジャカルタ地区で特に注意を要する地域は次のとおり。空港、ジャカルタ港（タンジュンプリオク）、コタ、パッサールスネンおよびバンテン、又駅やバスターミナルなど人の多く集る所は気を付けること。

(g) 夜間外出上の注意

夜間外出は自由であるが、時々物騒な話をきくので、1人歩きは出来るだけ避けること。又ベチャ^ズが強盗とグルになって凶行におよぶケースも中にはあるので、不案内の所ではベチャを利用しないこと。

(h) 緊急時における大使館又は駐在員との連絡方法

政情は大変安定しており、現在、非常事態の発生の心配はない。万一の場合は大使館および海外事務所と密接な連絡を保ち、その指示に従うこと。

17. その他

(i) 対日感情

対日感情は大変良好である。インドネシア人は内向的というが、忍耐強い面があるので、面とむきあっては他人の批判

をしない。

(ロ) 日本の新聞、雑誌等の購入

日本の新聞、雑誌等の定規購読は当地にエイジェントがあり、契約すれば可能である。但し、取扱い商品は限定されており、希望のものを取寄せてもらうことは出来ない。又定規購読ではなく、欲しい時だけ買うことは出来ない。取扱品以外を希望する場合は各自、日本より送付する以外ない。

購読料は次のとおり。(月間)

日刊誌	朝日, 毎日, 読売	13,300 RP
	日経	13,350
	サンケイ	12,000
月刊誌	文芸春秋	1,150
	主婦の友	2,700
	ミセス	2,000
週間誌	毎日, 朝日, 新潮, 各	2,500
	文春	
	現代, ポスト	2,900

なお、ジャカルタ以外に配達する場合は他に送料がかかる。

(ハ) 風俗習慣

① チ ッ プ

ホテル、レストランは一般に10%のサービス料がふくまれているので必要ない筈だが、ホテルで荷物を運ばせたり、用事を頼んだ場合は50 RP 程度やるとあとも喜んでやってくれる。空港では荷物(トランク等)1個につき50~100 RPほどやる必要がある。タクシーは不用。

② 専門家としての対面
体

服装は清潔を保ち、みだしなみに気をつけること。ジャカルタ市内の日本人は短期旅行者を含めると2,500人程度と推測され、レストラン、ゴルフ場、ナイトクラブ等何処へ行っても日本人が非常に多いので、その行動はとかく目につきやすい。最近ある日本人が、レストランで泥酔してわめいていたとか、ナイトクラブ、映画館に半ズボン・サンダルばきであらわれたという非難の投票が寄せられている。

レストラン、映画館などは、インドネシア人にとっては高級社交場であり、彼等が嗜着をきて集るところである。身心ともに良識ある行動をとって欲しい。

(イ) 美容院、美容院

散髪(散髪のみ) 250 ~ 350 RP

(洗髪・整髪^髪のみ) 500 ~ 1,000 RP

美容院 内地より高い。

(ロ) 買物

デパートや大きなスーパーマーケットは定価販売制度であるが、一般の店はすべて購入の際値引交渉が必要である。

外国人に対しては、5割から10割もふっかける場合がある。

(ハ) 日本よりの土産

在インドネシアの日本人に特に喜ばれる土産は、^{拖鞋}、~~サブ~~、タラコ、カマボコ、納豆、ツクダニ、カステラ、ドラヤキ、和菓子等。

Ⅲ 同国に対する我国の技術協力実績

昭和47年3月31日現在

区分 形態	農 水 産	建 設	鉱 工 業	運 輸	通 信	厚 生	行 政	そ の 他	累 計 (人)	経 費	
										(千円)	(千米ドル)
研修員受入	402	74	330	192	105	182	201	277	1,763	479,322	1,331
専門家派遣	198	113	146	46	18	90	7	27	645	432,582	1,202
農 業 協 力	名 称	内 容					期 間	人			
	西部ジャワ食糧緊急増産プロジェクト協力	ボゴール・ムアラ試験地における優良種子生産、検査および普及計画、スカマンディ SangHyang Seri 国営農場とパッサルミング中央農研農機具部における機械化訓練計画ならびにチャンジュールのチヘア農場における総合的農業改善計画に対する協力					43. 5 47. 3	36	246,732	1,259	
		機材供与							(116,147)	(323)	
	農業研究協力	わが国熱帯農業研究の成果を現地に応用するための調査						3	93,236	363	
		機材供与							(33,192)	(92)	

	名 称	内 容	期 間	団員数	(千円)	(千米ドル)			
農 業		予 備 調 査	44. 9 }	3					
		実 施 設 計 調 査	44. 10 45. 2 }				6		
協 力	タジム地区農業開 発調査	タジム地区に150ha のパイロットファームを 設置するための協力		26	32,224	90			
			予 備 調 査	44. 10 }					
		実 施 設 計 調 査	44. 11 45. 2 }						
開 発 技 術 協 力	東部ジャワ州とう もろこし開発協力	とうもろこしの生産増大 および輸出振興に必要な 技術協力の具体的方策樹 立計画への協力				188,521	524		
			機 材 供 与 実 施 調 査	44. 11 }	13	(93,773)	(260)		
		巡 回 指 導	42. 12 43. 10 }	3					
			43. 11 45. 11 }		3				
		専 門 家 派 遣	46. 1 43. 4	7					
	とうもろこし開発 基礎調査	中部ジャワ、南スラベン ランボン各省における とうもろこしの事情調査 基 礎 調 査	45. 11 }	14	109,050	325			
			45. 12 }						
			47. 3						

	名 称	内 容	期 間	団員数	(千円)	(千米ドル)
開 発 調 査	カリマンタン森林 開発に伴う港灣建 設計画調査	東カリマンタン地区のラ ワン材資源開発に伴う積 出港の建設計画調査	35. 7 ? 35. 9	5	5,476	15
	ジャカルタ市上水 道整備計画調査	ジャカルタ市上水道施設 は不完全なもので全人口 の $\frac{1}{2}$ の給水をしているに 過ぎず、又水不足である 市の人口増加に合致した 拡張計画を作成するため の調査	38.3. 1 ? 38.3.1	6	4,304	12
	ラロナ河電源開発 計画調査	ラロナ河水系を調査し、 特に雨期の流域内の氾濫 状態流況の観察、スラウ ェン島の電力需給等の調 査	39. 3 ? 39. 4	3	2,564	7
	ボンチャナック橋 架架設計画調査	ボンチャナック市を流れ る二つの河川に橋がない ため同地域の開発にとっ て重大なネックとなっ ているためこの河の架橋計 画に関する調査	40. 1 ? 40. 2	5	3,343	9
	とうもろこし開発 計画調査	東部ジャワ及び南スマト ラのとうもろこし増産開 発計画に対し乾燥方法、 貯蔵施設、輸送等につい ての調査	42.3. 7 ? 42.3.28	5	2,481	7
	ピトン港改善及び スラウェン道路修 復計画調査	港灣全体計画立案のため の調査、自然条件 道路全体計画立案	42. 9 ? 42. 10	9	10,642	30

	名 称	内 容	期 間	団員数	(千円)	(千米ドル)
開 発 調 査	東南アジア地域内 電気通信網整備計 画調査 台湾、フィリピン タイ、ラオス、マレ ーシア、グイェトナム	当該7カ国相互間の通信 計画基本構想樹立のため の調査	42. 10 } 42. 11	6	4,851	14
	スマトラハイウェイ 建設計画調査	同島の北端Banda- Atjehから南端 Pandjang迄2,400 Kmに亘る幹線道路建設を 目標に調査団を派遣	41. 8 } 41. 10	7	3,607	10
	電気事業開発拡充 基本計画基礎調査	電気事業の再建基本計画 作成のため、諸問題を調 査、検討し、当面の短期 計画を作成した	43. 12 } 44. 3	5	8,304	23
	紙パルプ工業工業 開発拡充計画調査	プアミヤンタル工場等の 既存の製紙工場を含めて 今後のインドネシア製紙 工業の開発拡充の可能性 について技術、経済、経 営及び行政面からの実施 調査	43. 10 } 43. 11	3	2,731	8
	東南アジア6カ国 鉄鋼業開発拡充調 査 台湾、マレーシア フィリピン、タイ シンガポール	当該国に調和のとれた鉄 鋼業を建設するための調 査	43. 6 } 43. 7	5	12,082	34

	名 称	内 容	期 間	担当数	(千円)	(千米ドル)		
開 発 調 査	電気事業開発拡充 基本計画長期基礎 調査	電力公社(PLN)の電力 供給地域および将来の供 給地域を調査し長期的視 野に立った経営上の問題 点を分析調査	44. 4 } 44. 7	5	10,116	28		
	バリト河流域開発 計画調査	バリト河流域開発計画策 定に必要な基礎調査計画 を立案するための予備調 査	45. 3 } 45. 4 } 45. 9 } 45. 10	6 15	5,213 23,965	14 67		
			紙パルプ工業開発 計画調査	紙パルプ工業開発基本計 画に関する経済、産業、 資源等の現状調査および 将来計画に対する勧告の ための調査	45. 6 } 45. 7	8	13,533	38
			漁業振興計画調査	サバン、クンダリ、プノ アおよびクバンクにおけ る漁業振興計画に関する フィージビリティ調査	45. 7 } 45. 9	6	15,661	43
			資源開発協力基礎 調査	スラウェン島中部約15,000 Km ² の地域の鉱物資源賦 存の可能性調査	45. 9 } 45. 12		152,079	422
	ウラール河浚渫工 事計画調査	北スマトラ州ウラール河 の洪水による水害防止の ため河口部の堆積土砂の 浚渫工事計画のためのフ ィージビリティ調査	45. 9 } 45. 12	6	16,173	45		

開 発 調 査	名 称	内 容	期 間	団員数	(千円)	(千米ドル)
	マラッカ海峡水路 調査 シンガポール マレーシア	マラッカ・シンガポール 海峡において深吃水船舶 の航行安全を確保するた め危険区域の水深、潮流 に関して水路調査を実施 し海図を作成	45. 9	21	78,291	219
			47. 3			
	繊維産業基本計画 調査	繊維産業全般につき生産 供給の実態調査、繊維需 要の予測をおこないマス タープランの作成	46. 2	3	25,150	72
			46. 3			
	鉱工業開発計画基 礎調査	① チラチャップ-ジョークジ ャカルタ間砂鉄開発 ② スラバヤルにおける 砂糖工場拡張 ③ ジャカルタ、スラバヤ、 チラチャップ、メダン工業 団地計画の策定 の三プロジェクトに関す るフィージビリティ調査	46. 3	8	10,940	30
スラウェン島資源 開発協力基礎調査	スラウェン島の鉱物賦存 の可能性を確認し地質調 査及び地形図化を行う	46. 11	19	65,495	18	
		46. 12				
バリト河流域地形 図作成事業調査	中央、南カリマンタン両 州を流れるバリト河流域 総合開発マスタープラン 策定のための同流域面積 6万平方キロのうち6千 平方キロの航空写真撮影	46. 11	6	5,349	15	
		46. 12				

開 発 計 画	名 称	内 容	期 間	団員数	(千円)	(千米ドル)
	ブラントス河水資源開発計画調査	ブラントス河の総合開発計画策定のための水文・気象等を主体とした基礎資料を収集、調査し低高水流量配分計画をつくる	46. 8 } 7 46. 11		30,514	87
	東部ジャワ電力計画調査	1972年～1985年に至る電力長期計画の策定に基づく現在の電力施設の調査、電力需要の想定、電源開発計画、送電線計画をつくる	46. 8 } 5 46. 11		24,614	70
	スラバヤ河改修計画調査	ブラントス河の分流スラバヤ河の改修とこれに関連する用水内水排除等に関する計画の策定	46. 12 } 13 47. 1		34,263	98
	経済開発基礎計画調査	1974年から開始される第二次5ヶ年計画の策定のうち (1) マクロモデルによる経済予測 (2) 製造工業品輸出の可能性の検討 (3) 輸出市場としての日本市場の基礎的な分析調査	47. 2 } 6 47. 4 47. 8 }		9,117	26
	内航船舶調査	海運産業の総合的計画の樹立にともない今後の計画の策定等の基礎となる現有船舶についての基礎的なデータの把握	47. 8 } 4 46. 4		8,060	23

	名 称	内 容	期 間	団員数	(千円)	(千米ドル)
開 発 計 画	ボマラ地区ニッケル開発計画調査	スラウェシ島ボマラ地区	47. 2	6	6,075	17
		における低品位ニッケル製錬計画に関しその採鉱計画、製錬計画並びに計画の経済性の検討	47. 3			
	機 材 名	供与先機関	年 度	数 量	(千円)	(千米ドル)
機 材 供 与	医療関係器具	スリウジャ大学	3 9	2 式	2,766	8
	野ねずみ駆除剤	農 林 省	4 0	5 トン	1,760	5
	鋳造用機械	メラウケ国営会社鋳造センター	4 5		1,871	5
	歯 科 器 材	西部ジャワ心臓研究所	4 2		3,751	10
	分光光度計、発電機	"	4 3		41,727	116
	胸部外科、心臓外科機材	インドネシア大学、インドネシア心臓研究所	4 3		7,513	21
	医 療 機 材	マルク州医務局	4 3		4,325	12
	心臓外科用器材	インドネシア大学	4 4		12,247	34
	医療機材、二素子心音計等	西ジャワ中央病院	4 4		14,011	39
	口腔外科用機材	バジャジャラン大学	4 4		5,090	14
	医療機材、発電機等	マルク州医務局	4 4		22,201	62
	家族計画指導用セット等	家族計画協力	4 4		7,145	20
	アイカスピロメーター等	ジャカルタ中央病院	4 5		4,345	12
	ガストロファイバー	西ジャワ中央病院	4 5		1,620	5
	スコープ等					
	口腔外科手術機械	バジャジャラン大学	4 5		355	1
	薬 品 類	家族計画	4 5		13,483	37
	鋳造用機材	サバングメラウケ国営会社	4 6		134	
	地質調査用機材	地質調査所	4 6		4,019	

IV インドネシア関係資料目録

昭和48年3月現在

№	資 料 名	作 成 年月日	発行 部課	備考
1	Djakarta 市水道拡張計画調査報告書	38. 5	開	
2	(英) Report on the water Supply Extension Project for the city of Djakarta INDONESIA	38. 8	開	
3	インドネシア教育事情報告 (伊藤芳照)	38. 6	派-8	
4	イ賠償研修生アルバム	38.12	特事	
5	コロンボ計画による巡回診療団のインドネシア派遣に 関する調査報告書	38.12	派	
6	Report on Indonesian government Trainees	39. 1	特事	
7	インドネシア・ラロナ河電源開発計画予備調査報告書	39. 5	開	
8	(英) Reconnaissance Report on the LARONA Project in the Republic of INDONESIA	39. 5	開	
9	国立バジャジャラン大学における日本語授業概要 (永保澄雄)	40. 2	派	
10	コロンボ計画によるインドネシア派遣巡回診療団報告 書	40. 3	派	
11	インドネシア・ポンチャナック橋梁架設計画調査報告 書	40. 3	開	
12	(英) Report on Preliminary Survey of the PONTIANAK BRIDGE CONSTRUCTION project in the Republic of INDONESIA	40. 3	開	
13	インドネシアの医療事情	41. 9	医-3	
14	技術協力動向調査報告書 (№5) (インド・インドネシア編)	41.12	企	
15	Survey Report on the Trans Sumatra Highway Project for the Republic of Indonesia	42. 2	開	
16	インドネシア共和国スマトラ縦貫道建設計画調査報告 書	42. 2	開	

№	資 料 名	作 成 年月日	発 行 部 課	備 考
17	Technical Report on Developing Indonesian Sericulture (勝又藤夫)	42. 8	派-80	
18	インドネシア共和国西部ジャワ中央病院に対する医療協力調査報告書	42. 9	医-11	
19	インドネシアとうもろこし開発計画調査報告書 (東ジャワ及びランボン州)	42.10	開	
20	(英) Report of the Survey mission to Indonesia on maize production and export	42. 9	開	
21	インドネシア食糧増産協力実施調査団報告書概要	42.12	農	
22	インドネシア西部ジャワ食糧増産協力実施調査団報告書	42.12	農	
23	インドネシア共和国 BITUNG 港近代化及び南北スラウェシ両州道路改修復計画調査報告書	43. 3	開	
24	(英) Modernization of BITUNG HARBOUR and Repairing of Roads in Sulawesi	43. 3	開	
25	インドネシア東部ジャワとうもろこし開発協力実施調査団報告書	43. 3	開技	
26	インドネシア共和国紙パルプ工業開発拡充計画調査報告書	43.12	開	
27	(英) Report of Survey on pulp and paper Industry Development and expansion Project (Republic of INDONESIA)	43.12	開	
28	インドネシア東部ジャワとうもろこし開発協力巡回指導班報告書(第1次)	43.11	開技	
29	インドネシア西部ジャワ食糧増産協力プロジェクト巡回指導調査団調査報告書	44. 3	農	
30	Report of the Japanese Technical guidance and survey Mission for Agricultural Cooperation in West Java Indonesia	44. 3	農	

順	資 料 名	作 成 年月日	発行 部 隊	備考
31	インドネシア・アンボン医療協力実施調査団報告書	44. 3	医-31	
32	インドネシア東部ジャワとうもろこし開発協力巡回指導班報告書	44. 4	開技	
33	インドネシア漁業技術協力計画実施調査団報告書	44. 6	セ-34	
34	インドネシア東部ジャワ州とうもろこし開発協力事業昭和43年度年次報告書 (昭和43年4月～昭和44年3月)	44.10	開技	
35	インドネシア農業研究協力予備調査団調査報告書	44.11	農	
36	インドネシア農業研究協力予備調査団調査報告書	44.11	農	
37	インドネシア共和国電力事業開発拡充基礎調査報告書第1, 2, 3巻	44.11	開	
38	Report on National Power Study in Republic of Indonesia Vol. 1, 2, 3	44.11	開	
39	インドネシア東部ジャワ州とうもろこし開発協力事業昭和44年度年次報告書(昭和44年上半年期におけるとうもろこし試験調査成績概要)	44.12	開技	
40	インドネシアタジム地区パイロット計画実施設計調査報告書	45. 1	農	
41	Preliminary Survey Report on Pilot Scheme of Tadjum Irrigation Project	45. 1	農	
42	インドネシア漁業技術協力計画第2次実施調査団報告書	45. 2	セ-38	
43	インドネシア共和国「西部ジャワ中央総合病院」臨床検査室に対する医療協力事業の報告書	45. 3	医-55	
44	インドネシア国バリト河総合開発計画第1次調査団報告書	45. 7	開	
45	インドネシア農業研究協力実施調査団調査報告書	45. 8	農	
46	インドネシア東部ジャワ州とうもろこし開発協力巡回指導班報告書	45. 6	開技	開技保存

番	資 料 名	作 成 年月日	発 行 部 課	備 考
47	海運調査団報告書	45. 9	派	
48	Report on Sea transportation in Indonesia	45. 9	派	
49	Report on Survey for Rehabilitation of Spinning and Weaving Mills in Indonesia (I・Kawatani 他)	45. 9	派	
50	インドネシア共和国紙パルプ工業開発計画調査報告書	45.10	開	
51	Development of Paper pulp Industry in Indonesia	45.10	開	
52	Report prepared by the technical Advisory Team to the Cooperation Project for Maize Project East Java, Indonesia	45.10	開技	
53	Republic of Indonesia Report on Fishery Development Project	45.11	開	
54	インドネシア共和国バリト河総合開発計画第2次調査 団中間報告書	45.11	開	
55	Report of the Japanese Survey mission on the Graving dock construction project on Surabaya, Indonesia	45.12	派	
56	インドネシア東部ジャワ州とうもろこし開発協力事業 昭和44年度年次報告書(昭和44年4月～昭和45年 3月)	46. 1	開技	
57	インドネシアとうもろこし開発基礎調査団報告書	46. 3	開技	
58	同 英 文	46. 3	開技	
59	インドネシア国沿岸通信調査報告書	46. 3	派	
60	Flood Control Projects in North Sumatra	46. 3	開	
61	インドネシア共和国北スマトラ諸河川洪水防御計画調 査報告書	46. 3	開	
62	各国事情のしおり —インドネシア編—	46. 3	管	
63	インドネシアにおけるとうもろこしの虫害および病気	46. 3	開技	

№	文 料 名	作 成 年月日	発行 部 課	備 考
64	インドネシア共和国カリマンタンバリト河流域リヤムガナンかんがい計画調査報告書	46. 3	開	
65	インドネシア共和国カリマンタンバリト河流域開発計画調査報告書資料収集および調査プログラム	46. 3	開	
66	Republic of Indonesia survey for development of Barito river basin Kalimantan-Data Collections & survey programmes	46. 3	開	
67	インドネシア共和国漁業振興計画調査報告書	46. 3	開	
68	Survey Report on Textile Industry Development project in Indonesia	46. 3	開	
69	インドネシア共和国水力調査報告書 第I巻 総括編, 第II巻 各論編, 第III巻 資料編	46. 3	派	
70	Report by preliminary Survey Team on Radio and Television Broadcasting in Indonesia	46. 3	派	
71	Report on hydro power survey project in republic of Indonesia Volume I " II	46. 3	派	
72	インドネシア国テヘア地区農業開発計画実施設計報告書	46. 4	農	
73	Tjhea Tani makmur pilot project on west Java Indonesia Design Report	46. 4	農	
74	インドネシア国スラバヤグレーピングドック建造工事調査報告書	46. 4	派	
75	インドネシア共和国繊維産業基本計画調査報告書	46. 5	開	
76	Report on Geological survey of Central Sulawesi Indonesia Vol I General " Vol II " Vol III	46. 6	開	

順	資 料 名	作 成 年月日	発行 部課	備考
77	Study system and Research Facilities on Lightning and High Voltage Engineering in Power Research Institute in Indonesia	46. 7	派	
78	Future plan of power system reseach division in the Power Research Institute (by H・Inoue)	46. 7	派	
79	Technical guidance on system analysis and protective relaying in the Power Research Institute (by H・Inoue)	46. 7	派	
80	Final report on planning for gas research laboratory of Power Research Institute (by S・Higuchi)	46. 8	派	
81	Preliminary Survey Report on Maize Development Cooperation Project in Indonesia	46. 9	開技	
82	インドネシア東部ジャワ州とうもろこし開発協力巡回指導班報告書	46. 9	開技	
83	Report on the Feasibility Study of the Construction of a Factory of Precast Concrete members in Indonesia	46.12	派	
84	Report on General management for Improving Environment of Construction Industry and Enterprising Units in Indonesia	46.12	派	
85	Report on the Survey and Guidance of Indonesian State-managed Amarta Karya	46.12	派	
86	Report on Ombilin and Aukit Asam Coalmines	46.12	派	
87	Report of the preliminary survey on the Broadcasting activities in Indonesia	46.	派	

№	資 料 名	作 成 年月日	発 行 部 課	備 考
88	Report by Diesel Railcar Survey Team in Indonesia (Project № F-22 Rail Bus) I, II	46.12	派	
89	インドネシアの水産業	47. 1	情	
90	インドネシア共和国内航船舶調査報告書	47. 2	開	
91	Republic of Indonesia Survey Report on Inter-Island Vessels in Indonesia	47. 3	開	
92	インドネシア国ランボン州開発計画に関する調査報告 書	47. 3	開	
93	インドネシア共和国東ジャワ電力長期計画調査報告書	47. 3		
94	The Republic of Indonesia Study on Long Range electric Power Development program in East Java	47. 3		
95	インドネシア漁業技術協力計画総合報告書	47. 3	セ	
96	インドネシアランボン農業開発調査報告書	46.12	開技	
97	インドネシア経済開発基礎調査 — 輸出市場としての 日本に関する調査 (中間報告)	47. 4	開	
98	インドネシア経済開発基礎調査 — 製造品輸出に関す る調査 (中間報告)	47. 4	開	
99	インドネシア経済開発基礎調査 — マクロモデルによ る長期予測 (中間報告)	47. 4	開	
100	インドネシア共和国ポマラ地区ニッケル製錬所建設計画調 査報告書	47. 5	開	
101	Report on the Survey for nickel smelter construction in Pomalaa area Republic of Indonesia	47. 5	開	
102	昭和46年度インドネシア東部ジャワ州とうもろこし 開発協力巡回指導班報告書II (サイロ建設予備調査)	47. 5	開技	
103	“ I (虫害・土壌肥料)	47. 5	開技	

№	資 料 名	作 成 年月日	発行 部 課	備考
104	インドネシア東部ジャワ州とうもろこし生産流通調査 報告書	47. 6	開技	
105	Sumatra Survey on Fisheries Problems	47. 6	セ	
106	Studies of the Indonesian Economy	47. 7	開	
107	インドネシア共和国ブランタス河流域水資源開発調査 要約報告書	47. 7	開	
108	Republic of Indonesia report on Brantas River Basin development (technical stud- ies)	47. 7	開	
109	" (data book)	47. 7	開	
110	" (main report)	47. 7	開	
111	インドネシア国ランボン州農業開発実施調査団報告書	47. 8	開技	
112	Report on implementation survey for agricultural development project Lampung province Republic of Indonesia	47. 8	開技	
113	インドネシア東部ジャワ州とうもろこし開発協力事業 昭和46年度年次報告書(昭和46年4月~昭和47 年3月)	47.10	開技	
114	インドネシア共和国鉱物資源開発基礎調査 第4巻 地質調査, 地化学探査報告書	47.11	開	
115	Report on geological survey of Central Sulawesi Indonesia Vol IV geological survey, Geochemical survey	47.11	開	
116	インドネシア共和国基礎化学工業開発計画調査報告書	47.11	開	
117	インドネシア共和国合成化学繊維工業開発計画調査報 告書	47.12	開	
118	インドネシア職業訓練センター(ウジュン・バンドン) 設置事前調査団調査報告書	47.12	セ	

№	資料名	作成年月日	発行部課	備考
119	インドネシア国 P. T. プリタネハリ造船所修復計画調査報告書	48. 1	派	
120	The Republic of Indonesia survey report on sunthetic and rayon fibre industry development	48. 2	開	
121	Lampung Agriculture Development Project in Lampung Indonesia-Design Report	48. 2	農	
122	Republic of Indonesia Feasibility Report on Surabaya River Improvement Project	48. 2	開	
123	インドネシア共和国スラバヤ河改修計画調査報告書	48. 2	開	
124	インドネシア農業研究協力供与資機材リスト (昭和45年度、46年度、47年度分)	48. 3	農	
125	昭和47年度インドネシア農業研究協力巡回指導調査団調査報告書	48. 3	農	
126	The Republic of Indonesia Report on Survey of Development Plan of Basic Chemical Industries	48. 3	開	
127	インドネシア経済開発基礎調査	48. 3	開	
128	Study of Economic Development of Indonesia	48. 3	開	
129	インドネシア共和国西部ジャワ地域チタルム水力発電計画調査報告書	48. 3	開	
130	The Republic of Indonesia Survey report on Saguling Hydroelectric Power Development Project	48. 3	開	

上記資料に関する問合せは総務部情報管理課資料係へ。

V 海外事務所等連絡先

海外事務所

OTCA

% Embassy of Japan

24 Jalan Thamrin, Jakarta, Indonesia

TEL ~~48148~~ (直) 50061 代表・内線 53

海外事務所長宅

Mr Teizo SUGIYAMA

No. 35 CIKATOMAS II

KEBAYORAN BARU, Jakarta, Indonesia

TEL 70973

